

●演習ワークシート

事例 1

症例：24 歳，女性

1 型糖尿病。BMI 19kg/m²。10 歳のころケトアシドーシスで発症した，急性発症の 1 型糖尿病患者。血糖コントロールは良好で，学生時代の成績も優秀であったが，22 歳で就職したことをきっかけに生活のリズムが崩れ，血糖コントロールが悪化した。今回一念発起して夏休み期間中に血糖コントロール目的に入院することとした。

来院時検査所見

HbA1c	空腹時血糖	血清 C ペプチド	抗 GAD 抗体
9.0%	160mg/dL	<0.3ng/mL	12.2U/mL

肝機能・腎機能に異常なし。

合併症：網膜症なし，腎症第 1 期，神経障害なし，妊娠なし

入院後，規則正しい食事摂取と病院内のフィットネスセンターにて運動療法を行うとともにインスリン量の調整も行った。現在，ノボラピッド[®]を朝食直前 6 単位，昼食直前 4 単位，夕食直前 4 単位に加え，ランタス XR[®]を眠前に 10 単位注射している。血糖コントロール良好で退院間近であったが，本日朝低血糖を認めた。症状はない。最近 3 日間の血糖の推移は下記のとおりである。

	朝食前	朝食後	昼食前	昼食後	夕食前	夕食後	眠前
①	92		110		98		118
②	88		102		100		106
③	62						

演習課題 1

下記より正しい対応を選んでください。

- ①朝のノボラピッドを減量注射して朝食を摂る
- ②食事を早出して食後にノボラピッドを注射する
- ③ブドウ糖を内服し，血糖 70 以上になったら通常通りノボラピッドを注射して食事を摂る

●演習ワークシート

事例 2 (事例 1 続き)

入院後、規則正しい食事摂取と病院内のフィットネスセンターにて運動療法を行うとともにインスリン量の調整も行った。現在、ノボラピッド[®]を朝食直前 6 単位、昼食直前 4 単位、夕食直前 6 単位に加え、ランタス XR[®]を眠前に 10 単位注射している。血糖コントロール良好で退院間近であったが、最近早朝空腹時の血糖が上昇し、夜中に寝汗をかいている。

間食はしていない。最近 3 日間の血糖の推移は下記のとおりである。

	朝食前	朝食後	昼食前	昼食後	夕食前	夕食後	眠前
①	120		110		98		90
②	132		108		96		88
③	140						

演習課題 2

空腹時血糖値から何を考え、どのように対応するのか検討してください。